

幕末の思想家たち

2019 年本試

問 6 幕末の思想家についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 25

- ① 吉田松陰は，仏教や儒学の影響を排除して，純粋な日本古来の神の道を説く復古神道を唱え，尊王攘夷論の立場から江戸幕府の政治を批判した。
- ② 吉田松陰は，すべての民は身分にかかわらず，藩などの枠を超え日本の主君である天皇に忠誠を尽くすべきだとする一君万民の思想を主張した。
- ③ 会沢正志斎は，水戸学の立場から，国の危機に際し，日本人としての自覚と主君への忠誠心を絶対視する大義名分論を唱え，公武合体論を推進した。
- ④ 会沢正志斎は，水戸学の立場から，儒学に基づきつつ西洋文化も受容して富国を図るために開国論を主張し，諸外国との平和な関係構築を目指した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	25	②	3

2016 年追試

問 6 洋学者の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

25

- ① 幕府の命を受け甘藷栽培に従事した前野良沢は，長崎においてオランダ語の学習に着手し，洋学の基礎を築いた。
- ② 適塾を開いた緒方洪庵は，実学的な観点から西洋の議会主義を高く評価し，積極的な開国論を主張した。
- ③ 『解体新書』を訳述した渡辺崋山は，オランダ医学を教授して，人体構造についての正確な知識の普及に努めた。
- ④ 『戊戌夢物語』を著した高野長英は，国際情勢への知識から，アメリカ商船を撃退した幕府の海防施策を批判した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	25	④	2

2015 年追試

問 4 儒学の影響のもとに自らの思想を形成した江戸時代の知識人についての記述として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 山片蟠桃は、大坂の懐徳堂に学んだ町人学者である。大乘仏典を文献学的に検討した彼は、仏典のすべてが釈迦自身の教説であるとは限らず、後代に付加されたものもあるという加上説を唱え、大乘非仏説論を主張した。
- ② 三浦梅園は、遊学先の長崎で西洋の科学知識を積極的に受容し、その思索を深めた。自然には「条理」がそなわっていると考えた彼は、儒学における「理」や「気」の論理を踏まえつつ、独創的な自然哲学の体系を構築した。
- ③ 横井小楠は、儒学に基づきつつ、西洋の技術と知識の積極的な受容を説いた。「堯舜孔子の道を明らかにし、西洋器械の術を尽くす」と述べた彼は、「大義」を世界にいきわたらせ、「民富」をはかる実学を提唱した。
- ④ 佐久間象山は、アヘン戦争で清国がイギリスに敗北したことに衝撃を受け、西洋に対抗するためには、その科学技術の移入が必要であると考えた。そのため、「東洋道徳」とともに「西洋芸術」を学ぶべきであると主張した。

問 5 こうした現世主義的傾向は幕末にも広くみられた。次の文章は、吉田松陰が死者の靈魂と葬祭について述べたものである。彼の主張の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 24

人死すれば、魂は天に帰し、魄は地に帰す*。葬ると葬らぬと、祭ると祭らぬと、死人の心において、かつて関係あることなし。しかるに、人の情として、死したりとて死せりとするに忍びず、亡せたりとて亡せたりとするに忍びず。……父母の骸骨を葬らざる者あらんや、父母の墳墓宗廟を祭らざる者あらんや。ゆえに葬祭はみな人情なり。……智を貴び、理を以て言ふ時は、「死人の骸骨は魂魄すでに去る、原野に投ずるも可なり、狐狸に飽かしむる**も可なり」と、云ふに至る。しかして人情を如何せん。またあるいは、葬らざれば精霊が迷ふと云ひ、祭らねば罰を蒙るの、禍を受くるのと云ふは人情に似たれども、畢

竟己が利害禍福より起こる所の見にして、亦人情の至極に非ず。

(『講孟余話』より)

*魂と魄：儒学では、精神に関わる魂と、肉体に関わる魄の二つの靈魂があるとされた。

**飽かしむる：食べさせてしまうこと。

- ① 人間の靈魂は、死後、天地に還るので、葬祭を営むことは死者にとっては意味がない。しかし、現世に生きる者にとって、親しい人の死を悼むことは自然な感情であり、葬祭はこうした人情に基づくものである。
- ② 人間の靈魂は、死後、天地に還るので、葬祭を営むことは死者にとっては意味がない。したがって、華美な葬祭を無駄なものであると考えて、死者の遺体を野原に放置し、葬祭を勤めないのは人情にかなうことである。
- ③ 理知的な立場から言えば、自らの父母の遺体や墳墓を祀る必要はない。しかし、死者の靈魂を祀らないと、祟りを受け、あるいは災厄がもたらされると考えて葬祭を行うのは、最も人情にかなった行いである。
- ④ 道理に基づいて考えるならば、自らの父母の遺体や墳墓を祀らない者はいない。死後の自分の身体が子孫によって粗末にされることを嫌うのも人情であり、父母の葬祭を勤めるのはそうしたことを防ぐためである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問4	23	①	3
第3問	問5	24	①	3

2012 年本試

問 6 「天道」との関わりにおいて、人間の実践を能動的なものとして捉えようとした思想家の一人に吉田松陰がいる。彼の思想についての記述として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 18

- ① 天道にかなうとは、功名や利欲を離れた純粹な心情に徹し、己の誠を尽くすことにほかならない。我が国の主君に忠を尽くす勤皇の精神は、この誠において、天道に通じている。
- ② 日常卑近な人間関係における愛こそが天道にかなうものである。人々が孔子の道に立ち返り、他者に対して忠信や恕の実践に努めるならば、互いに愛し親しむ和合が実現する。
- ③ 日々営まれる農業こそ、自然の根源的な生成活動としての天道にかなう営みである。万人が直接に農業に携わる自給自足の生活に復帰すべきであり、農民に寄生している武士や町人は無用である。
- ④ 天道は事物のおのずからなる働きであるが、そこに人道が加わることによって事物の働きは完全になる。分に応じた儉約によって得た富を社会に還元することによって、天地や他者の恩恵に報いなければならない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	18	①	3

2011 年本試

問 5 善行の社会的な側面をも重視する近世の思想家もいた。次のア～エはそれらの思想家の説明であるが、それぞれ誰だれのことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 18

ア 古代中国の聖人が制作した儀礼・音楽・刑罰・政治などの制度こそが、天下を安んずるための「道」であるとし、心の修養を求めることよりも、具体的な「道」を学び実践することによる効果の方が重要であると説いた。

イ すべての人々が田畑を耕して衣食住を自給する平等社会を、理想的な「自然世」と呼んだ。そして、みずから耕さずに農民に寄生している武士などが存在する当時の差別社会を「法世」と呼び、「自然世」への復帰を説いた。

ウ 名を求め、恥を知るという心のあり方を重んじる中世的な気風の武士道を批判し、儒学に基づく武士道としての「士道」を説いた。そして、武士は道徳的な指導者となって人倫の道を天下に実現すべきであると主張した。

エ アヘン戦争で清がイギリスに敗北したことに衝撃を受け、西洋諸国に対抗するためには科学技術の移入が必要であると考えた。そして、「東洋道徳」とともに「西洋芸術」をも詳しく学ぶべきであると主張した。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|-------|
| ① | ア | 荻生徂徠 | イ | 安藤昌益 | ウ | 山鹿素行 | エ | 佐久間象山 |
| ② | ア | 安藤昌益 | イ | 山鹿素行 | ウ | 荻生徂徠 | エ | 高野長英 |
| ③ | ア | 山鹿素行 | イ | 安藤昌益 | ウ | 荻生徂徠 | エ | 佐久間象山 |
| ④ | ア | 山鹿素行 | イ | 荻生徂徠 | ウ | 安藤昌益 | エ | 吉田松陰 |
| ⑤ | ア | 荻生徂徠 | イ | 山鹿素行 | ウ | 安藤昌益 | エ | 高野長英 |
| ⑥ | ア | 安藤昌益 | イ | 荻生徂徠 | ウ | 山鹿素行 | エ | 吉田松陰 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問5	18	①	3

2002 年本試

問 1 文章中の 22 に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ
選べ。 22

19 世紀中ごろのアヘン戦争による中国の敗退と、ペリーの来航にはじまる黒船の
出現は、日本においては儒教的な世界観を揺るがした。そのなかで佐久間象山は
「東洋道德、西洋芸術」と唱えて西洋の学問を受容する論理を創り上げた。同時代の
22 は、西洋の民主主義やキリスト教を儒教的に読み替えて、「堯舜孔子の道^{ぎょうしゅん}を
明らかにし、西洋器械の術を尽くす」と述べて、「大義」を世界に実践し、「民富」
をはかる実学を提唱した。

- ① 坂本竜馬 ② 吉田松陰 ③ 横井小楠 ④ 勝海舟

問 5 東洋道德、西洋芸術の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから
一つ選べ、 26

- ① 東洋の道德は西洋の芸術に対抗できるものであるから、西洋の芸術を受け
入れてもかまわない。
- ② 東洋では道德が優れており、西洋では技術が優れているので、両者を兼ね
合わせる必要がある。
- ③ 東洋の道德では西洋の芸術を理解できないので、西洋の思想も受け入れな
ければならない。
- ④ 東洋の道德と西洋の技術とは対抗関係にあるので、東洋の道德を守る必要
がある。

問 6 幕末になると、水戸学に見られるように、攘夷思想^{じょうい}と結びついた国体論の影
響を受けて、和魂の性格が大きく変容する。この和魂の性格の変容に関する記
述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 27

- ① 国体論が強調されると、和魂は異質な文化や思想を排除する日本の特殊性の根拠としての性格を強める。
- ② 国体論が強調されると、和魂は異質な文化や思想を積極的に駆使しうる主体性の根拠としての性格を強める。
- ③ 国体論が強調されると、和魂は異質な文化や思想に同化しようとする性格を強める。
- ④ 国体論が強調されると、和魂は異質な文化や思想との対立を融和させようとする性格を強める。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問1	22	③	2
第3問	問5	26	②	3
第3問	問6	27	①	3